



PACIFIC CARGUY RACING

2021 SUPER GT SERIES ROUND 4 MOTEGI Race Report

カテゴリー : GT300クラス
エントラント名 : PACIFIC CARGUY Racing

Best Lap : 1:48.809
Q1 Bグループ : 6位
Q2 : 10位
決勝 : 7位

マシン名 : PACIFIC NAC CARGUY Ferrari
カーナンバー : 9
タイヤ : ヨコハマタイヤ
ドライバー : ケイ・コッツォリーノ、横溝直輝
レースクイーン : Pacific Fairies

開催日 : 2021年7月17日-18日
会場 : ツインリンクもてぎ(一周4.801km)
天候 : 17日 ☀(Dry) 18日 ☀(Dry)
気温 : 17日 31℃→37℃ 18日 35℃→37℃
路面温度 : 17日 38℃→47℃ 18日 46℃→52℃
参戦車両数 : GT500/15台 GT300/29台 合計44台

PACIFIC NAC CARGUY Ferrari

夏のもてぎを制し7位でフィニッシュ。
今シーズン初の入賞を果たす。

事前情報

5月23日-24日に開催が予定されていたRd.3鈴鹿が新型コロナウイルスの影響により8月へ延期となり、約2か月ぶりのレース開催となった Rd.4もてぎ。待ちに待ったレース開催にファンの熱気も高まった。梅雨が明け夏本番となったサーキットは最高気温37℃を超える猛暑日となり、観客の熱気も相まって、Rd.4もてぎはまさに灼熱のレースとなった。

「PACIFIC CARGUY Racing」はRd.4もてぎ/Rd.3鈴鹿におけるドライバーラインナップを変更。新たに横溝直輝選手を起用し、2017年ブランパンGTアジア日本勢初の優勝を飾ったケイ選手と横溝選手のコンビで参戦。ポイント獲得に向けてレースに挑んだ。

公式予選: Q1



2021.7.17

14:33-14:43

ドライバー:ケイ・コッツォリーノ

気温 : 37℃

路面温度 : 47℃

順位 : Bグループ6位

Best Lap : 1:48.809

Lap数 : 4Lap

走行距離 : 19.204km

■今レースのベストタイムを記録し、Q2へ繋ぐ。

GT300クラスの予選Q1はA組、B組に分かれて行われ、上位8位がQ2に進出するノックアウト方式がとられた。PACIFIC CARGUY RacingはB組での出走。気温37℃、路面温度47℃と炎天下の中、ステアリングを握るのはケイ選手。1周目は気温、路面温度、タイヤの調子を確認しながら走行。2周目から徐々にスピードを上げ始め、4周目でアタック。1:408.809という今レースのベストタイムを記録。Q1B組6番手で見事 Q2へ進出を決め、続く横溝選手へバトンを託した。

公式予選:Q2



2021.7.17

15:08-15:18

ドライバー:横溝直輝

気温 : 37℃

路面温度 : 47℃

Best Lap : 1:48.849

Lap数 : 5Lap

走行距離 : 24.005km

■託されたバトンを握り、好タイムをマーク。10番グリッドで決勝へ。

気温37℃、路面温度47℃とQ1と変わらず過酷なコンディション。Q2ドライバーは横溝選手。コース上の混雑を避けるため、やや遅れてのコースイン。

Q1同様3周目までウォームアップし、4周目でアタックを開始。1:48.849をマークし、Q2 10番手でフィニッシュとなった。決勝レースは10番グリッドから出走する。

2021.7.18

13:10-15:10

第1ステント:横溝直輝

第2ステント:ケイ・コッツォリーノ

気温 : 35℃

路面温度 : 46℃

Best Lap : 1:51.478

Lap数 : 58Lap

走行距離 : 278.458km

決勝



予選同様猛暑日となった決勝レース。前回のRd.2富士ではマシントラブルにより順位を落とす結果となったが、今回はその悔しさをばねにリベンジを狙った。スタートドライバーは横溝選手。10番手から出走し、順調な走りを見せ9番手へ浮上。しかしレースアクシデントにより12番手となる。19周目に差し掛かったところでピットインし、横溝選手からケイ選手へドライバー交代。その後ケイ選手の怒涛の追い上げにより7番手まで浮上した。38周目にトラブルが発生した車両があったためFCYが提示。更に42周目に接触トラブルによって停止車両が出たため、再度FCYが掲示された。過酷な暑さに加え、トラブルが続き波乱のレースとなったが、PACIFIC CARGUY Racingは無事レースを完走し、7番手でチェッカー。今シーズン初の入賞となり、見事ポイント獲得を果たした。

COMMENT



総監督 神野元樹

「前回の Rd.2富士ではマシントラブルにより満足いくコンディションを作れませんでした。今回はその反省を活かし、しっかりとコンディション整えてくれました。その成果がポイント獲得に繋がったのだと考えます。次回の Rd.3鈴鹿はFerrariが得意とするコースレイアウトです。確実にポイントを獲得できるよう、しっかりと準備をして臨みたいと思います。」



ケイ・コツオリーノ

「Ferrari 488 GT3をもてぎで走らせるのは初めてだったため不確定要素が多い中挑んだレースウィークでした。Q1を突破したものの、自分が納得できる「一発の速さ」が欠けていました。レース後半はタイヤのチョイスが当たり序盤でロスした分を取り返すことができましたが、まだ優勝できるペースではありませんでした。しっかり反省して、欠点を一つずつ改善していきたいと思います。」



横溝直輝

「僕のスティントはかなりタフなレース展開でしたが、チームの戦略とケイ選手の素晴らしいロングスティントのおかげで7位でゴールする事が出来ました。限られた時間の中、初めての車や環境等、新しい事に対応する事が多く大変な週末でした。次回の鈴鹿は今回の経験を活かし、もっとアグレッシブに攻めていきますので期待してください。応援ありがとうございました。」

PARTNERS






SPONSORS

























